

# Puboo所感

作者：大臣

概要：パブーを使ってみて感じた、できることとできないこと。メモ感覚でちょろちょろまとめてみます。ときどき更新してます。 ■最終更新：2010.06.22

## 本の作成・編集

- 基本的にはほぼブログ。ブログ感覚で投稿、編集が可能。はてダで小説などを書く、という感覚に近いかも。
- 文字は、フォントや色、太字など、いわゆるHTML的な加工が可能。
  - HTMLタグ直打ちも可。画像も載せられる。
  - このあたりは非常にWordPressライク。
- 【不具合】打ち消し線が利いてない。
  - この文字列は打ち消し設定してあるけどかかってない様子。PDF化しても同様。
- ルビは微妙。
  - 対応の要望は投げてみました。
  - ただ個人的には、ルビがあるとないで小説の表現力に大きく差が出るなあと感じるので、できることならやっぱり対応してもらいたい。
  - HTML編集モードでならルビを付けることは可能。
  - ただしPDF化したときに行内に押し込まれて、かなり微妙。
- 登録するとユーザーごと、作品ごとのページが作られる。IDはブックログと共有。
- 作品には章立てを設けることが可能。
- 1つの作品は1つ以上のページで作成する。並び替えも簡単。
- 作品には1つだけ、ジャンル指定が可能。
  - 一つだと物足りない印象。SFでありファンタジーでもある小説に対して、片方のみしかジャンル指定できないと、もう片方のジャンルで検索するユーザーを拾いきれない。
- 小説だけじゃなく、エッセイやレシピなんかも気軽に投稿できる感じ。
  - ぶっちゃけブログとして使っても問題なさそう。

## 公開形式

電子書籍として見たときに一番気になるところ。

- 作品単位でPDF、ePub形式への変換が可能。自動で表紙とか付く。
- 非公開設定してるページは、PDF化したときに含まれない。
- 作品ごとに「更新」ボタンを押したタイミングで、PDF・ePubが生成しなおされる。
  - 過去に生成した判のPDFを取っておくことも可能。何判までかは不明。判は手動で削除可能。全部を削除することはできない。
- iPhone/iPad/Androidなどへの変換は、現在未対応。

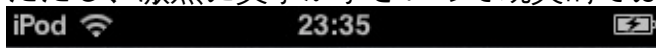
## 有料頒布

電子書籍として気になるところ。やはり印税生活というのは憧れますし。無料公開に関してはほぼブログ準拠なので、ここでは有料公開について。

- 作品単位で料金設定が可能。現在は、100～3000円の範囲内。
- 印税は70%がユーザー、残りがブックログ。（一般的な同人ショップと同じ比率）
- 印税の振り込みタイミングは月ごと。印税が1000円を越えたら振り込まれる。
- 振り込み、引き落としには銀行口座を登録する仕組み。クレカはなさそう。
- おさいぼ（<http://osaipo.jp/>）も使用可能。こっちでクレカ使えますね。
- 料金の変更は、いつでも可能。無料から有料の相互変更もボタンひとつ。
  - ※iPhoneアプリは一度無料にすると有料に戻せないとかあるので。
- 有料作品には「立ち読み」ページの設定が可能。1ページ目だけは無料で読めますとかできる。範囲は自由に設定可能。
- 有料配布作品のPDFには特にアクセスロックなどかかってないので、P2Pで流れたらアウト。
  - ここはどうにか対応してもらうように要望はしてみた。でもどういう手段があるか……というところ。PDFには元からロック機能が付いてはいるけれど。
  - iPhone/iPadアプリにする場合、AppleストアからDLしたアプリとしてしかインストールできないという制約があるので、この点は回避される。
  - iPhone/iPadはiOS4.0で、PDFをそのままiBooksへ管理出来るようになるという機能が追加される。この本棚からコピーしてメール添付とか出来てしまうと、また問題かも。

## 閲覧関連

- ログインせずとも閲覧は可能。
- 作品に対してお気に入り設定が可能。お気に入り作品を蒐集できる。
  - ただしログイン必須。
- しおりを挟まれた回数、お気に入りされた回数、購入された回数が見れる。
  - 誰がしおり、お気に入り、コメントしたかも見れる。
- 新着作品、新着ページはトップに載る。
- ランキングもある。本ごと、ページごとにより。
- 作品ごと、ページごとにコメント投稿可能。コメント禁止設定もできる。
- iPhone/iPadでの閲覧について
  - iPod touch(OS4.0)
    - 試してみたところ、PDFはSafariまたはiBooksで読める。
    - ただし、激烈に文字が小さいので現実的ではない。



### 0. ノクターン第2巻定本長編Op.9-2 #1

体音階までの道は決して苦ではない。運送のいのちをひよいと振り回して、悪地内に入ってきましまたは別棟に行かれて  
いる体音階は容易に見つけられることが出来る。秘密前から見て裏側へはいつともはっきりと口を開いている穴が覗いている  
ため、ずるりと身を潜らせればそこはもうフローリングの床の上である。

軽く扉を叩いて立ち上がると、いつものことだがまず高い天井に正面される。柱間など電気が煌々と輝いている状況ではそ  
んなこととは思えないが、暗闇に包まれたこの体音階の天井というのは、覗き込まれそうなのほどに黒く漆を塗られた

。これを初めて見たときはそれこそ驚愕しそうなものだったが、今はもう何の怖れもなく眺めることが出来る。この暗闇の奥  
にあるのは天井などではなく地盤のような異世界か、はたまた楽天的な立体的な、今ではそんな想像的なものに思わせる  
ことが出来るほどに余裕が広がっていた。

そんな思ひはさて置き、扉は土足のままずりずりと体音階を移動する。ざしりと何とも怪しい音が立てる体音階はむし  
る姿を知らず知らずのうちに、毎夜毎夜は足を運んでしまう魅力の一つは、この古くも昔に馴染みを見失ってしまうことにもあるの  
かもしれない。

扉を叩いた瞬間に見えかけて正面に輝かれたステージへと上る。少しばかり狭くなった通路は、この建築の中でむしるそ  
ろろと響き渡る。何も存在しない空間。

まだ遠くの方で扉が叩き交す騒動音がたまに聞こえてくるだけ。

周囲には人影も主要通路もないこの異世界では、そんな静寂に落ちた空間というのは当たり前の光景である。目や鼻に鮮やかな  
環境であり、まさに宇宙（まなびや）にはうってつけの条件とも言える立地条件である。柱間は幾何学的な形が美しく響く。

その環境は自然の事ながら宇宙としてではなく、演奏するのにもまさるうってつけの場所とも言える。周囲の音響が近づい  
たことすら容易ではないこの場所において、静けさもあるべき空間こそがその響き。まさに音楽家の夢を現実化する夢  
境の一つになっていると言える。

扉は扉を叩いた瞬間にステージを渡り、直ぐに昇り上がり、それに向かってゆっくりと近づき、ピアノの上に着きついで  
景色のカーテンは巻き上げると、その下からは深奥の扉が開く。

体音階を包む扉はより思ひに塗られた。その色はいつ見ても思ひに塗られた。誰かの指がいつか叩  
いてくるが、その多くは恐らく自分のものだろうと思うことを確信はしていた。そもそもこのピアノはほとんど壊れること  
がないのだ。

体音階にあるピアノなど楽譜だけ、楽譜は読めるのは入学式や卒業式、あるいは文化祭といった行事くらいなもの。フ  
ットサルやバスケットボールを行うときなどはいかにステージの設備を整えなければならない。そういふ事柄も取り立てて完  
全に整備を怠らされている。存在自体がもはや形骸化されているのである。

音楽室へ扉を叩くという声もあるが、音楽室には音楽室で用いるピアノが用意されているためそういう声にもいさ  
ず、結局いまだにこの場所には響いているという話である。

あるいは、見捨てられたのだ。音楽室ではピアノなど演奏せずにステージを流してしまおうという気運もあり、もはやこの劇中の  
ピアノは廃れつつある。既にもう一冊以上調律されていらないという事柄からも明らかだろう。

ぼんやりとそのピアノを見つめる。少しばかり狭そうなの（まなこ）で、三十秒ほどそうやって見つめていた。黒い世界で  
静かではあるが静寂を確かめながら、しばらくして、ようやく思ひに塗られたかのようにポットからくずみだした音を聞き取  
り出した。

平気で聴かす。差し込んで来る。からりという、小さいがよく響き渡る音が体音階を一層包み込みそして流れていった

。古いで平気で天板を開き、静かな静寂に引き寄せた静寂の壁を開ける。大抵の音はピアノを弾く前に必ずの音を調整す  
るが、このピアノに響かされた静寂に置かれては静寂の他に静寂が響かないため、毎夜毎夜調整する必要はない。四回使用さ  
れたのも二日間の深夜に音が響いたのが最後だろう。

ひとつ大きく深呼吸。体音階に響いた静寂を味わうかのようにゆっくりと思ひに塗ら、身体をまっすぐに立て、羽をためるため  
も静寂をためるためでもなく、まるで機械の始まりを思わせるかのように響かされた。

ゆっくりと右手を差し出し、そして白鍵の上へと垂直に下ろす。ハンマーが駆動した音を聞き、ずこしチューニングのずれた  
楽譜が体音階の入り口へと向かって飛んでいった。

その音を確かめるかのようにゆっくりと腕の鍵盤に触れる。チューニングのずれた、見違えより少し思ひ音が響き体音階

- 
- フォントサイズはちょっと考えた方がよさげ。参考までに、上のはフォント12pxらしい。（他HTMLからコピペして作成した文章）
- 最適な大きさは、もうちょっと研究したい。